

テーマ 『ウタの心を求めて』

講師 声楽家 4組 大川宗男

丑寅講座でテーマを決めてから、固くなりがちクラシック音楽の話、さてどう皆さんに解りやすく伝えようかと思案する日々には常に新しい発見があります。

話をまとめようと You tube を聴いたり、譜面を引っ張り出したりしている瞬間の刺激こそ喜びであり、後期高齢期人生の今を音楽に触れ、語り合う楽しさを丑寅の皆さんと共有してゆきたいと願っています。

始める前に：《似ているかな？》— (だから何だって言うの？ ただそれだけのハナシ)

- ① 五番街のマリーハ ② ショパン：ピアノ協奏曲1番1楽章 ③ 記念樹 ④ 早春賦  
⑤ 恋のアマリリス ⑥ スコットランド民謡：ロツホローモンド ⑦ モーツァルト：春への憧れ  
⑧ どこまでも行こう ⑨ スコットランド民謡：Coming through the rye(夕空晴れて) ⑩ 北の宿から

(前回のおさらい：サラッといきまあしょう)

① ウタにおける日本語の抑揚と旋律の関係

要点1 日本語抑揚の高低はド・レ・ミ 要点2 多くの旋律の 1音符=1音節、  
従って音節の一語に音節の多い日本語は旋律を埋めるのに不利。

例： 抑揚に沿った旋律ライン：赤とんぼ からたちの花 (その際旋律の醸し出す魅力が重要)  
抑揚に反した旋律ライン：青葉の笛 予科練の歌 花の街 (慣れる事で違和感がなくなる)  
反することの魅力： 愛の賛歌 リンゴの歌 喝采 (かえって魅力になる)

② 旋律と歌詞の融合関係 (注：特定の旋律を美しく感じるかそうでないかは多分に個人差があります)

旋律勝ちの歌 例：《千の風になって》《しぐれに寄する抒情(大中恩)》  
旋律が親しみ易い故歌詞がより活きる歌 例：昭和歌謡・演歌を含むその時代にヒットしたほとんどの歌  
旋律は平凡、歌詞との融合で永遠の命 例：ベートーベン《歓喜の歌》《ふるさと》《横高校歌》  
旋律も歌詞も天才的に素晴らしい 例：全ての世界的名曲 例は限りなし 日本歌曲《初恋》

(ここまでは前回のおさらい)

③ ドイツ語における狭い母音 i・u の響きの不思議な魅力 (切り込むような美しさ、冷たさと暖かさ)

例：《菩提樹》 《魔王のささやき》 《君こそ我が戀い》 《汝を愛すーベートーベン》

④ 邦訳のウタにおける日本語の柔軟性と言語の持つ意味・内容の深さを伝える素晴らしさ

日本語はウタにおいて西洋語に比べて不利である。しかし言語の、時代による移り変わりに関わらず、その伝統の持つ柔軟さと表現の持つ多様性は我々日本人の永遠にして大いなる誇りとすべきである。

例：ブラムスの子守唄：5人の詩人による日本語の訳詩があります。

その内3人の女性詩人による訳詩の1番を比較しながら、口ずさんでみたいと思います。

- 1 竹内敏子 ねんねんころーりー 母のひざは 夢を誘うーゆりかごよー  
ゆらりーゆらりーゆらりゆれーてー 夢の一團へー 乳をー飲みに一
- 2 緒園涼子 ねむれよ吾子(あこ)ー バラの花 汝(な)がもとへー咲きめぐるー  
ねむれー吾子よー いと楽しくー 夜のとばりー消えゆくまでー
- 3 中山知子 バラの花は風に揺れて 夢のウターをー 歌いますー  
眠れー ぼうやー静かな夜をー 花のなかでー 朝をー待つの一

## 『かくも美しく尊き我等が遺産』

論述 レジюме

### 概論： 学校において「誇るべき遺産」とは？

小学校・中学校・高校・大学に於ける何れの学校にも、生徒、先生、父兄、OBその他関係者の間で大切にされ、誇れる遺産が三つある。

- ① **校旗** 目に見えるもの、そこにあり飾られるもの。(比較：軍旗)
- ② **校歌** 歌い奏でることで時間の流れの中で消えてゆき、イメージの世界のみ残る **活きた遺産**。
- ③ **永遠の絆** 学生生活、即ちホームルーム、クラス授業、部活、修学旅行、先生・先輩後輩・親しい友人達との交流を通して、学校内外での思い出など全てにおいて生まれ、OB会、同期会、同窓会などで復活する絆。抽象的表現ではあるが、これを遺産として受け取るか否かで **校歌の価値** が問われる。

### 総論：校歌の「遺産としての性格・特質」

- ① 国歌君が代・諸外国国歌・六大学校歌(慶応・法政・明治・早稲田)との比較。
- ② 国歌＝国民によって永遠に歌われ歌い継がれてゆく。時には厳肅に時には情熱的に。  
校歌＝生徒・OB達によって、ほぼ永遠に歌い継がれてゆく。儀式的雰囲気が生じる傾向あり。
- ③ 歌い継がれてゆく時代的流れの中で、旋律・歌詞に盛られた心や叙情性に対する不変の敬意と尊敬

### 各論：

#### ① 校歌「天がける白雲」に内在する性格・特質

**旋律サイド**：単純明快だが曲調の変化やサビに欠ける。(歌詞との融合性が強調される—この項総論参照)

**歌詞サイド**：解りやすい言葉の中に、**自然えの憧憬**、概論③に示された**絆への敬意**、未来に向けての人生における**永遠の理想**。この特質はOBにとって不可欠である。(以後これ等を**歌詞のココロ**と呼ぶ)

**歌詞・旋律融合サイド**：同じような盛り上がり部分が二箇所ある。

旋律が単純ゆえに歌詞の意味を強調できる。

大事な部分に響かせ難い母音 **i** があり、歌唱上要注意すべき。

#### ② 校歌「天がける白雲」が歌われてきた歴史と現状

1：我々八期が2学年の時に校歌制定、はじめはゆったりとした4拍子で歌われていた。

2：創立100周年記念の数年前に音楽教師が変わり、2拍子のマーチ風テンポに変えてしまった。

3：創立100年を機に4拍子テンポ復活。しかし生徒達の生活観の変化、体力の減少などの理由で早めのテンポが好まれ、生徒間では校歌は単なる儀式儀礼的ウタとして歌われる傾向にある。検証の要あり。

4：青春校歌祭及び朋友会の集いでは、祭礼的テンションの高さ故、早めのテンポで歌われている。

和音【あ】の明るさ響きを利用しよう!

横高校歌《天がける白雲》

Temp ♩ = 100  
♩ 下<sub>2</sub>"

④



(a) (a) (a)